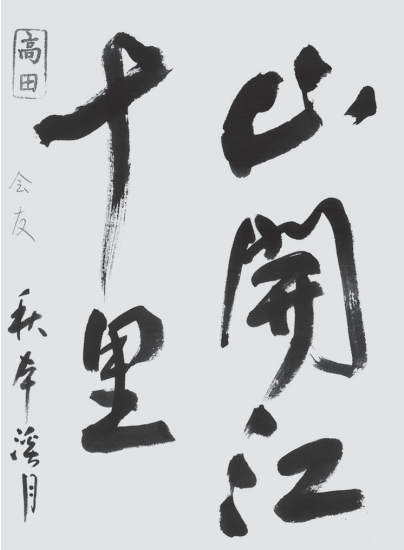
今月の最優秀作品

【漢字条幅】

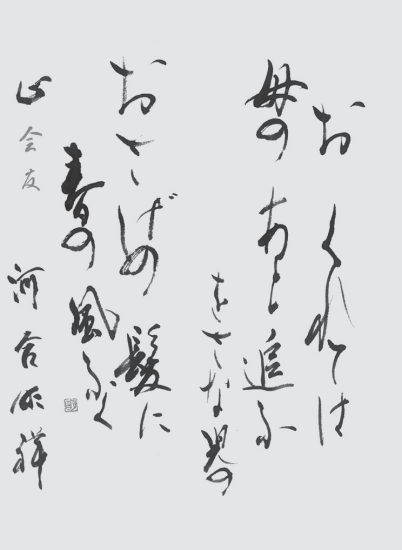
松　角田　茅水　文字の書体や大小・線の太細の変化に無理が無い。濃墨を駆使した鍛練の作品は、快く鑑賞できる。
（審査評　永井　香樹）

【漢字半紙】



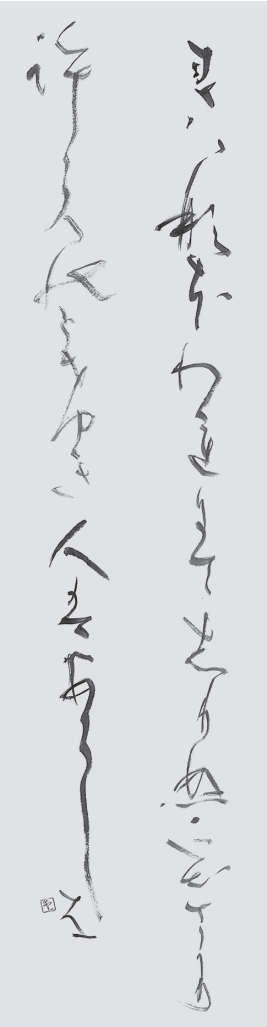
高田　秋本　溪月　章法、用筆に優れ完成度の高い作品。含蓄ある線の中で「十」の縦画の渇筆が作品全体に明るさと爽快感を醸し出している。　（審査評　松岡　雪華）

【新和様半紙】



山　河合　明祥　鍛えられた運筆でのびのびと表現。やさしい墨色と歌意がマッチし瀟洒。後半の二行が作品を引き締めた。
（審査評　吉家　桂雪）

【かな条幅】

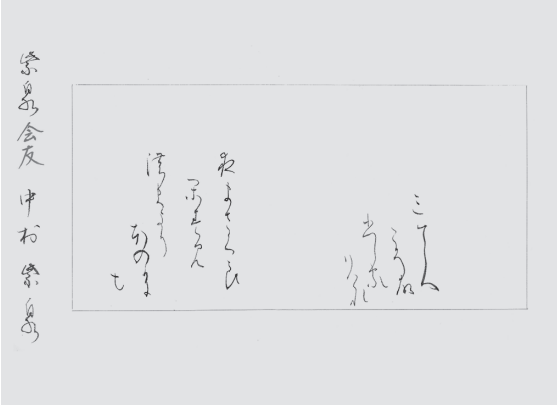


祥瑞　河野　愛子　軽やかな筆の運びで多面的な様相を表す技量がある。柔らかな墨色と優しく揺れる行を用いて、温雅な景色を仕上げた。
（審査評　川島　史子）

【新和様条幅】

伊賀　石田　春代　鋒先の開閉による線の太細と自由な運筆が力強く魅力あり。「馬酔木」の渇筆の運筆がみごとである。落款の位置留意。
（審査評　二宮　桂秀）

【かな半紙】



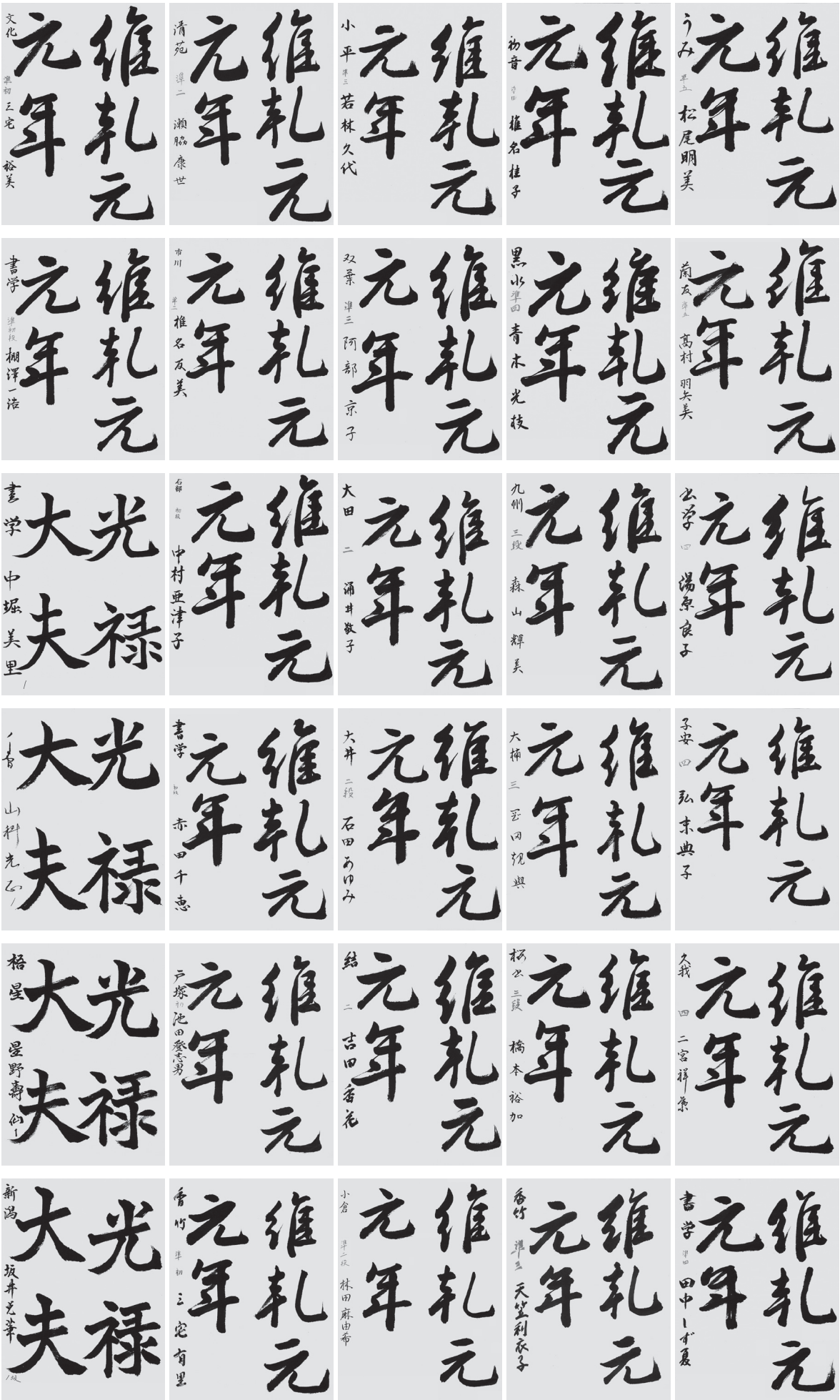
紫泉　中村　紫泉　行頭の高低の変化や空間を的確に捉えている。下の句「てし人」の直線的な深い線から細線まで秀麗にまとめている。
（審査評　永瀬　和子）

5月提出の競書の写真版全作品は、5月29日（木）より本会ホームページに掲載いたします。

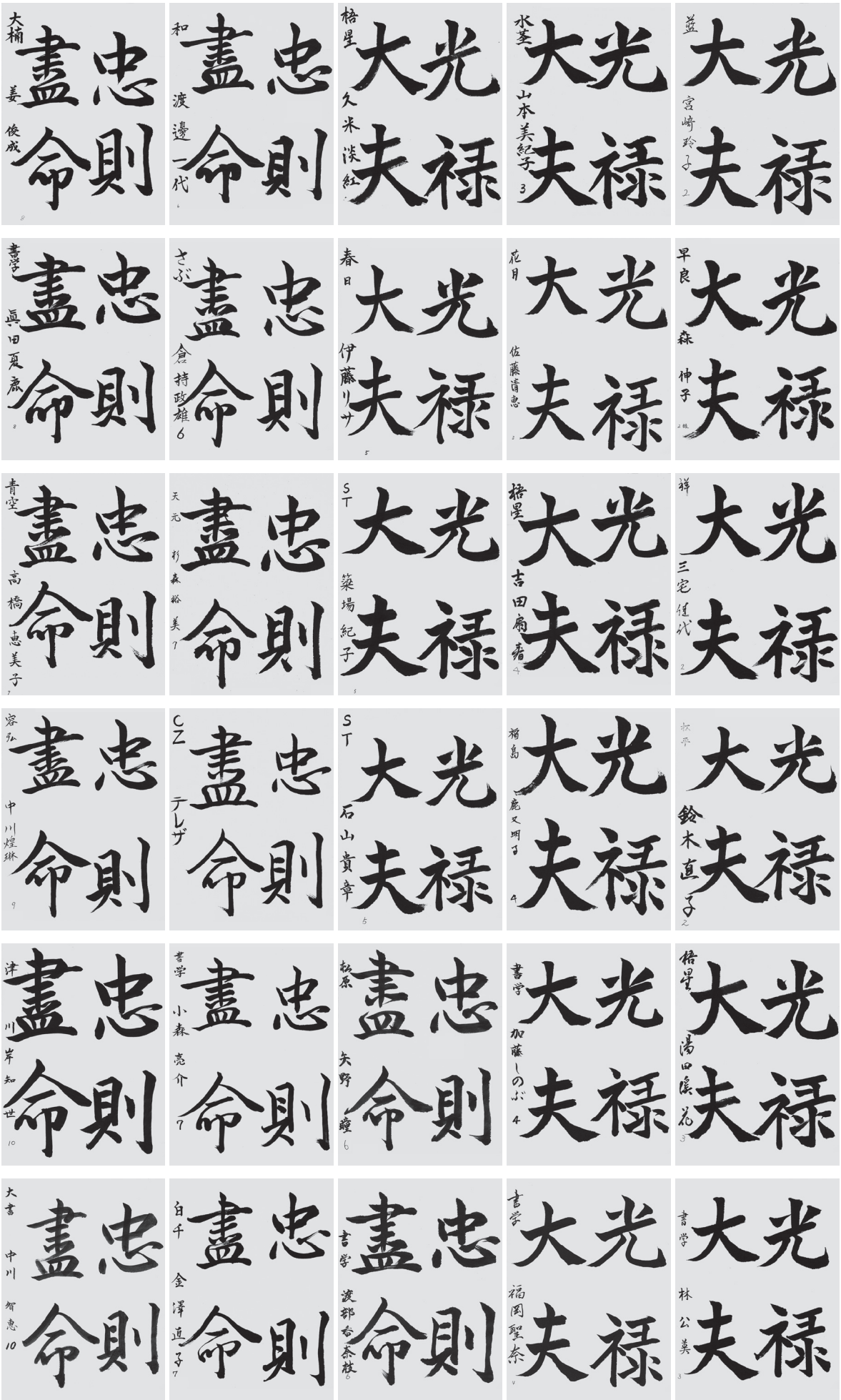
漢字半紙

山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
山開江十里
維新元年
維新元年
維新元年
維新元年
維新元年
維新元年

漢字半紙

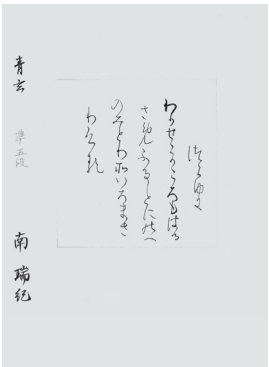

維新元
元年
うみ 準五 松尾明美
初音 準四 椎名桂子
小平 準三 若林久代
清苑 準二 瀬脇康世
文化 準初 三宅裕美
蘭友 準五 髙村明美
黒川 準四 青木光枝
双葉 準三 阿部京子
市川 準二 椎名友美
書学 準初段 棚澤一浩
出学 四 湯原良子
九州 三段 森山輝美
大田 二 涌井敬子
石郷 初段 中村亜津子
書学 中堀美里
子安 四 弘末典子
大楠 三 宮田悦與
大井 二段 石田あゆみ
書学 初段 赤田千恵
子育 山科光乙
久我 四 二宮祥泰
柳川 三段 橋本裕加
結 二 吉田香花
戸塚 初 池田登志男
榕星 星野壽仙
書学 準四 田中しず夏
香竹 準五 天笠利衣子
小倉 準二段 林田麻由希
香竹 準初 三宅有里
新潟 坂井芳華 1段
光禄
大夫

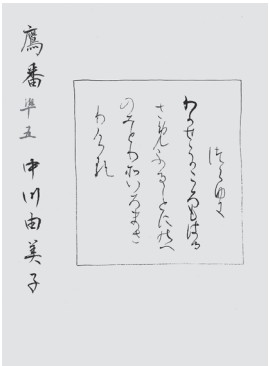
漢字半紙

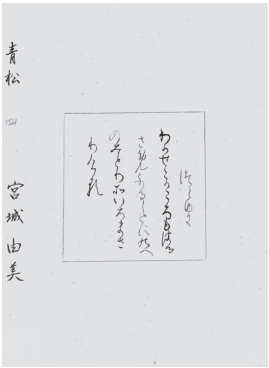

大補 姜 俊成
和 渡邊一代
梧星 久米淡紅
水茎 山本美紀子 3
益 宮崎玲子 2
書学 眞田夏嵐
さぶ 倉持政雄 6
春日 伊藤リサ 5
花月 佐藤清忠
早良 森 伸子
青空 高橋恵美子 7
天元 杉森松美 7
ST 築場紀子 5
梧星 吉田廣者 4
祥 三宅征代 2
容弘 中川煌琳 9
CZ テレザ
ST 石山貴章 5
稲島 鹿又明子 4
板平 鈴木直子 2
津川岸知世 10
書学 小森亮介 7
松系 矢野瞳 6
書学 加藤しのぶ 4
梧星 湯田溪花 3
大書 中川智恵 10
白千 金澤直子 7
書学 渡部香奈枝 8
書学 福岡聖奈 9
書学 林公美 3

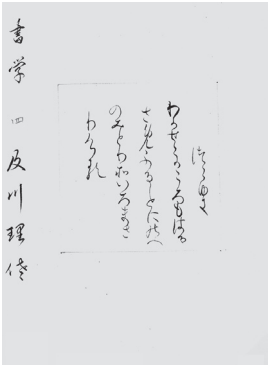
かな半紙

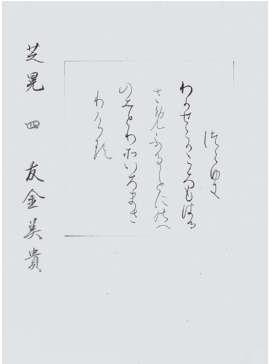
今月の優秀作品

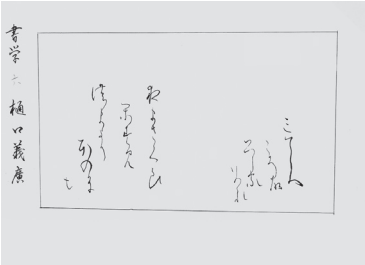


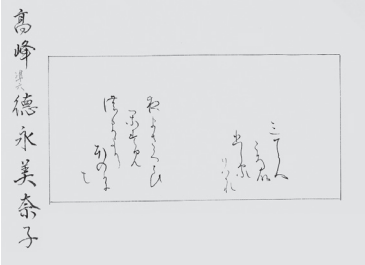


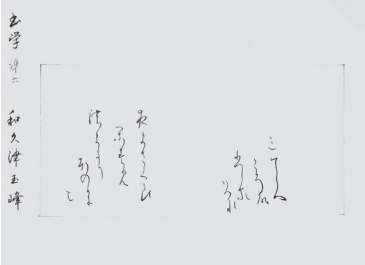


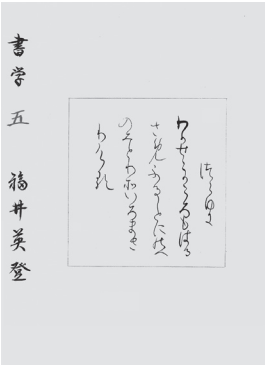


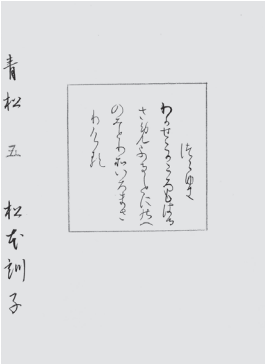


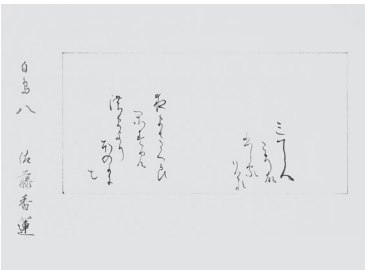


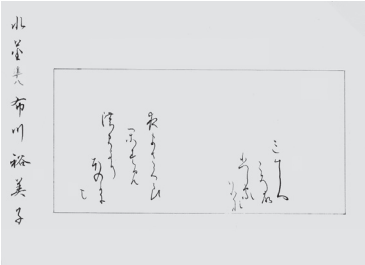


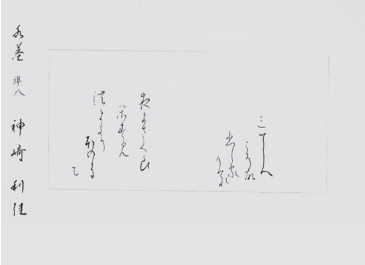


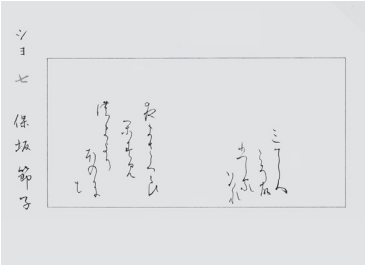


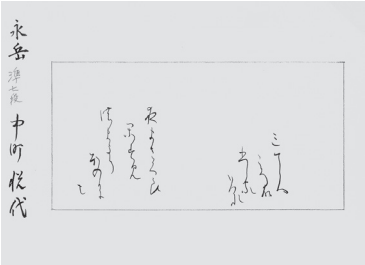


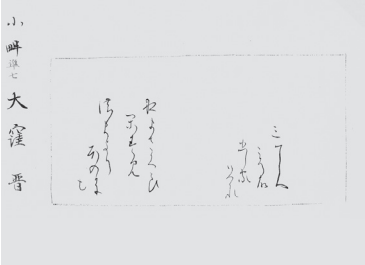


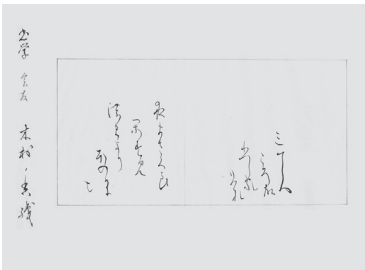


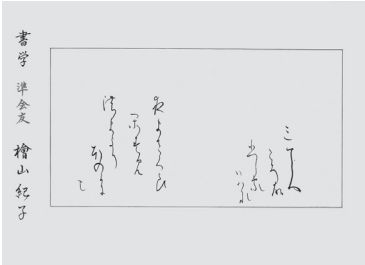


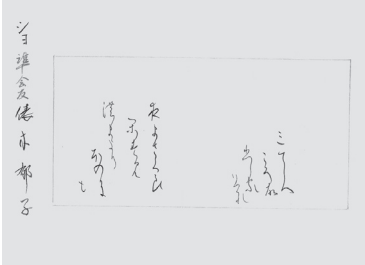


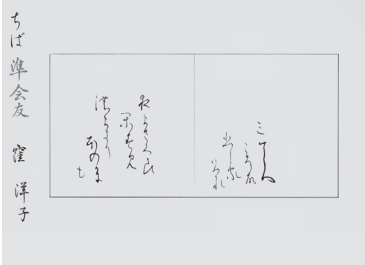


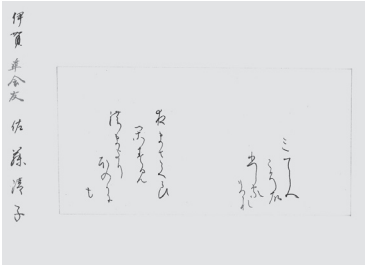


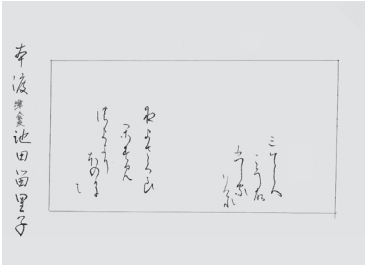


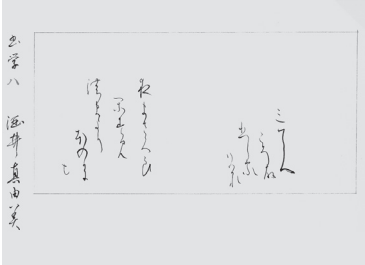




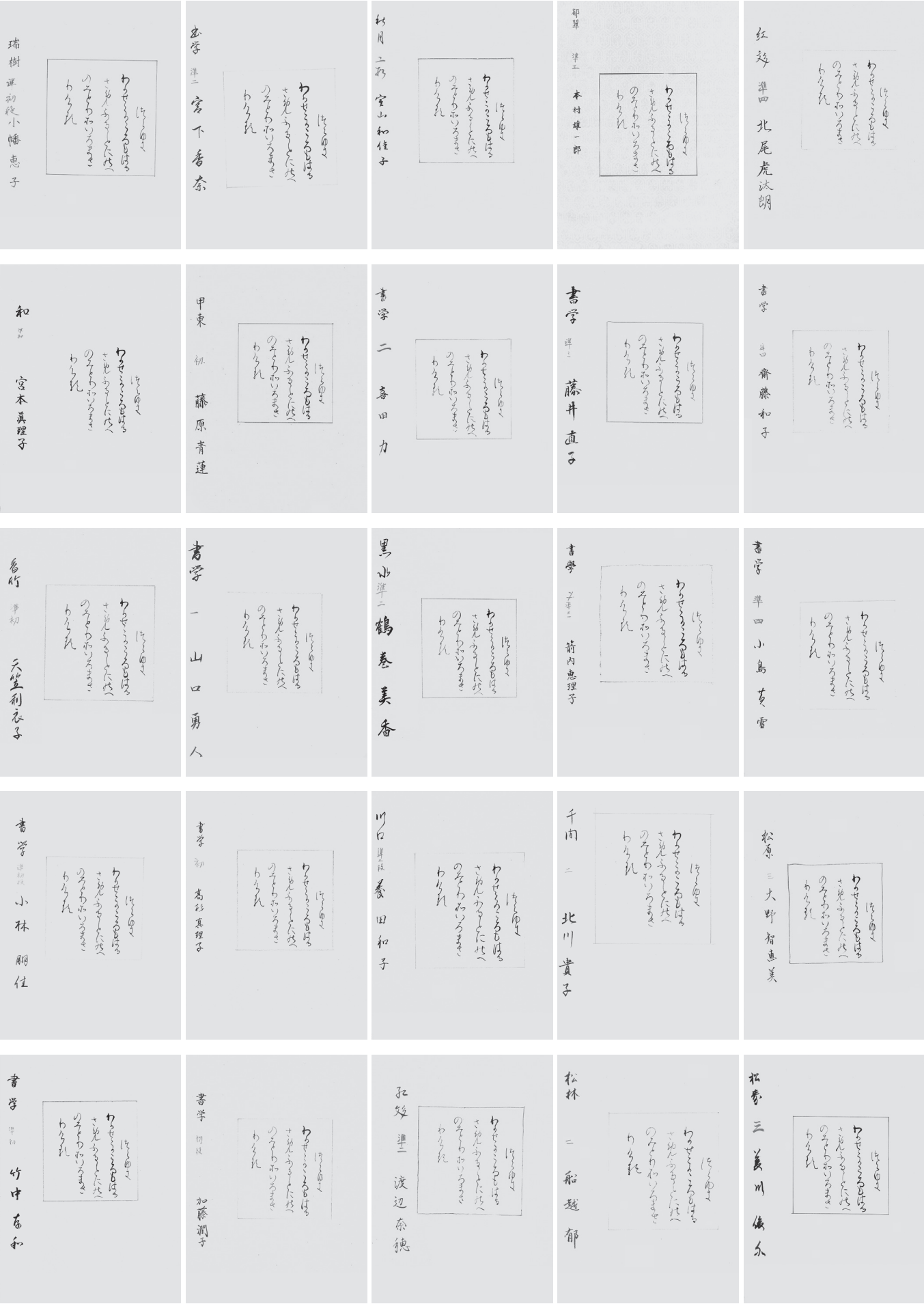






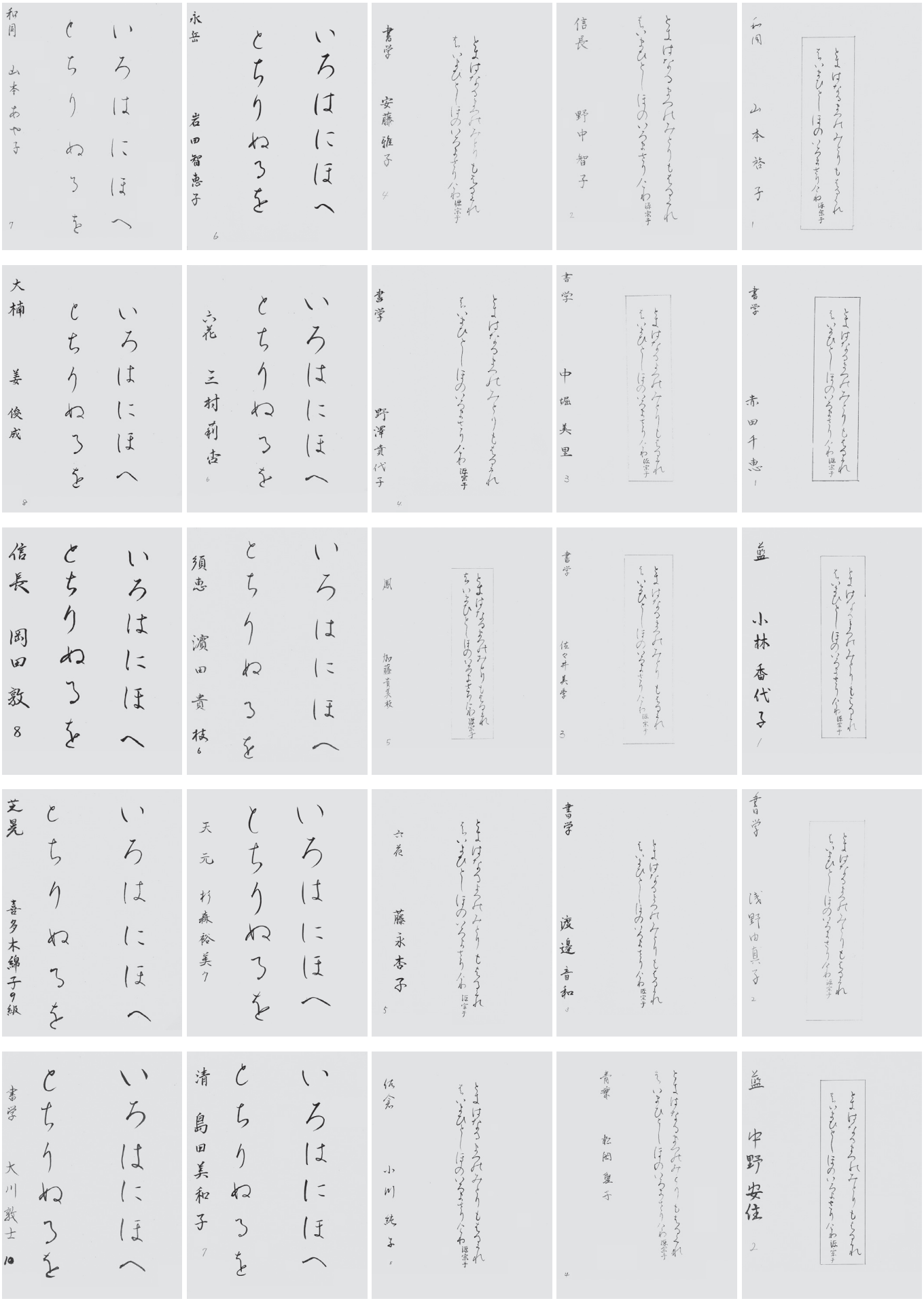


かな半紙


紅葉 準四 北尾虎洲朗
郁翠 準五 本村雄一郎
秋月 二段 宮山和佳子
玄学 準二 宮下香奈
瑞樹 準初段 小幡恵子
書学 準四 齋藤和子
書学 準三 藤井直子
書学 二 喜田力
甲東 初 藤原青蓮
和 準初 宮本真理子
書学 準四 小島芙雪
書学 準三 箭内恵理子
黒水 準二 鶴巻美香
書学 一 山口勇人
看竹 準初 天笠利衣子
松泉 三 大野智恵美
千間 二 北川貴子
川口 準二段 養田和子
書学 初 高杉真理子
書学 準初段 小林順仕
松泉 三 義川倫子
松林 二 船越郁
孔雀 準三 渡辺奈穂
書学 初段 加藤潤子
書学 準初 竹中春和

かな半紙

今月の優秀作品



新和様半紙

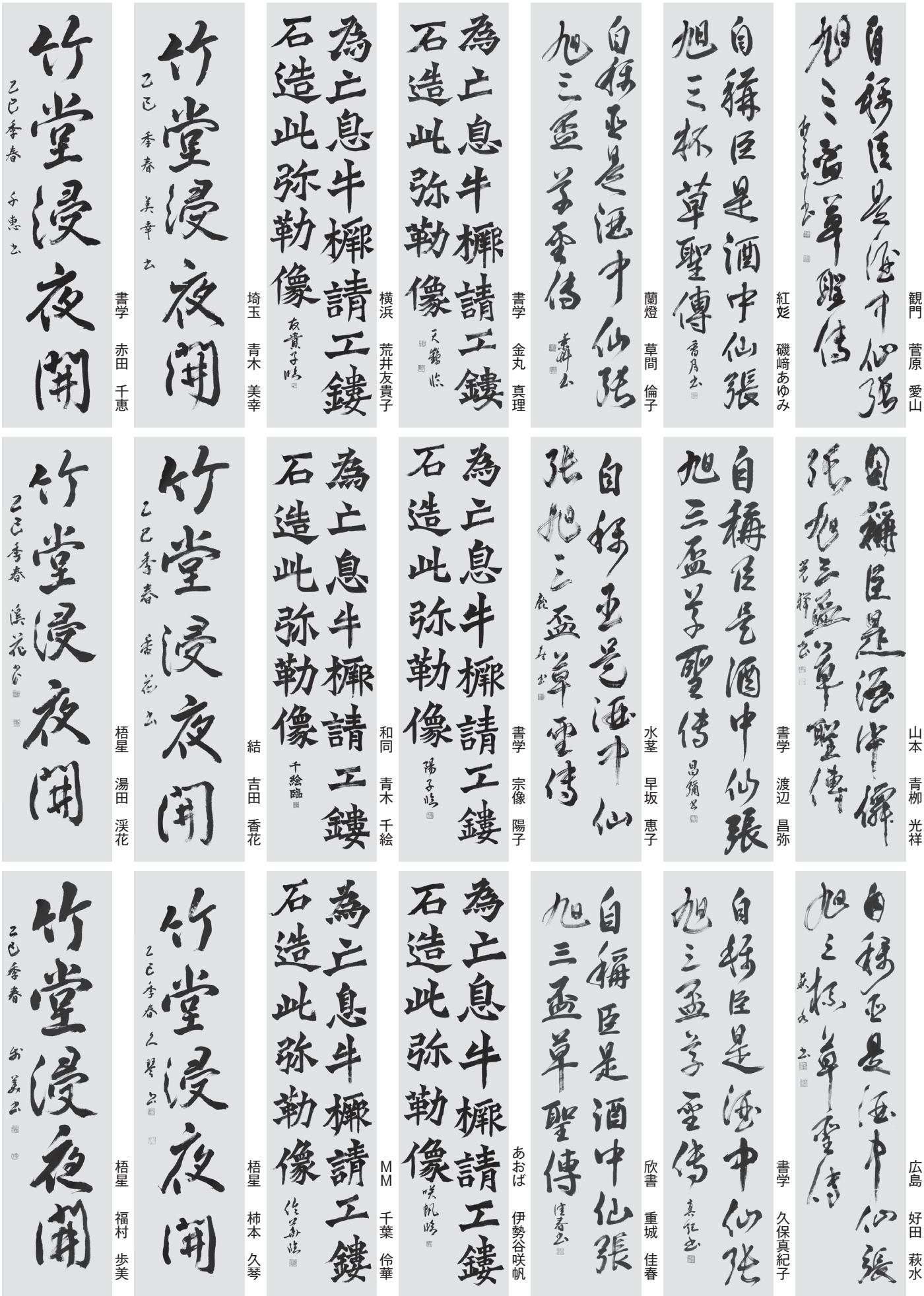
新和様半紙

今月の優秀作品

新和様半紙

箱根 川原美智代 1
富士 青柳あや子
翠 大越好美 4
永岳 岩田智恵子 6
春日 宮科 早苗 8
松原 松田芳子 1
裕星 高橋圭子 3
横山 比嘉和子 4
書学 清水真理 6
書学 小林明佳 8
書学 棚澤一浩 1
小諸 小林由美子 3
書学 大和谷裕子 5
大田 涌井敬子 6
書学 加藤しのぶ 9
東之 津司紀子 2
文南 樋田洋彩 3
裕星 久米淡紅 5
書学 渡邊美佳子 7
青山 大石彩 9
高峰 畑山真弓 2
裕星 福村衍美 1
恵那 足立暁陽
翠園 上江洲麻子 7
芝見 喜多木綿子 10級

漢字条幅



観門　菅原　愛山

紅炬　磯崎あゆみ

蘭燈　草間　倫子

書学　金丸　真理

横浜　荒井友貴子

埼玉　青木　美幸

書学　赤田　千恵

山本　青柳　光祥

書学　渡辺　昌弥

水茎　早坂　恵子

書学　宗像　陽子

和同　青木　千絵

結　吉田　香花

梧星　湯田　渓花

広島　好田　萩水

書学　久保真紀子

欣書　重城　佳春

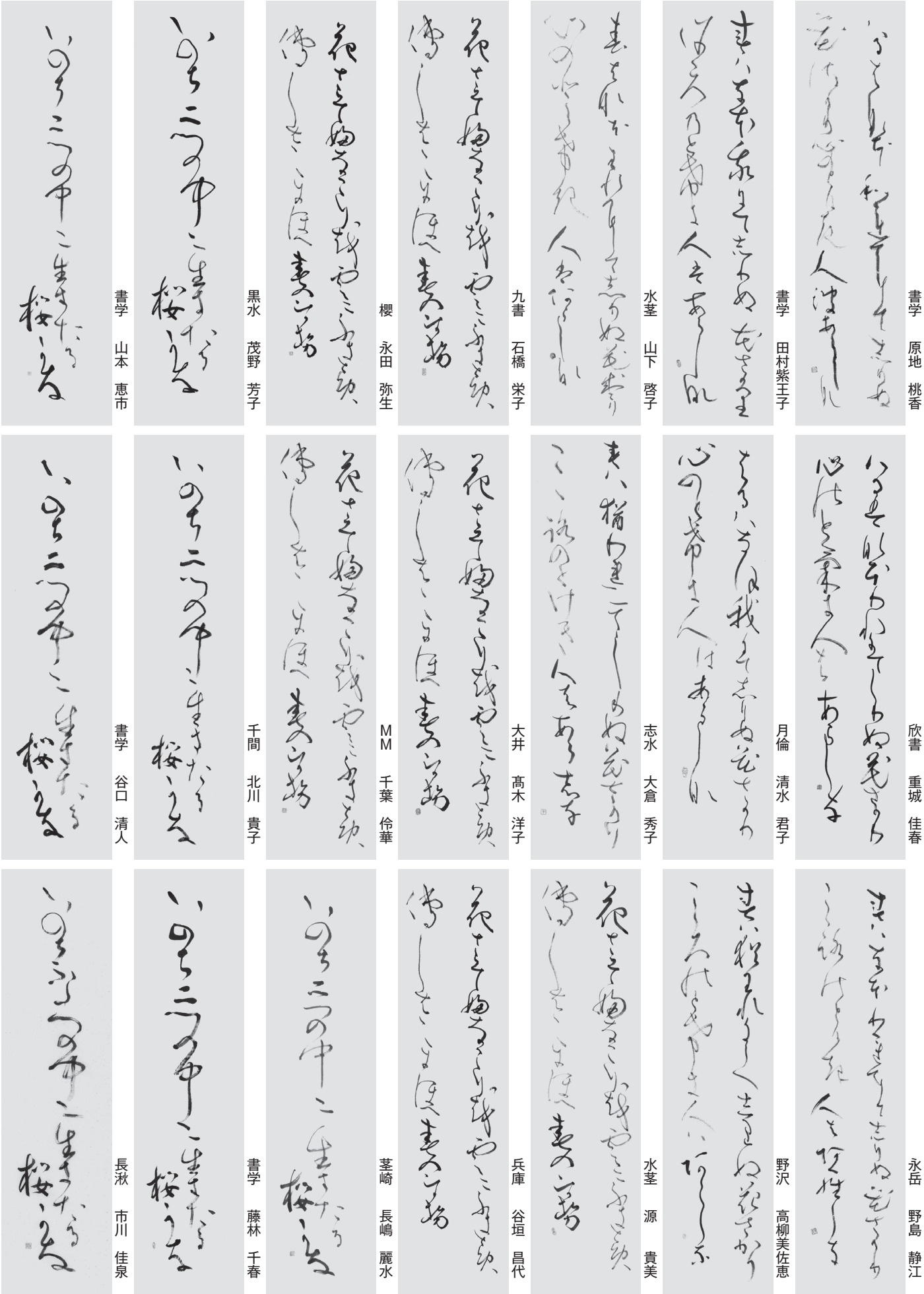
あおば　伊勢谷咲帆

MM　千葉　伶華

梧星　柿本　久琴

梧星　福村　歩美

かな条幅



書学　原地　桃香

書学　田村紫王子

水茎　山下　啓子

九書　石橋　栄子

櫻　永田　弥生

黒水　茂野　芳子

書学　山本　恵市

欣書　重城　佳春

月倫　清水　君子

志水　大倉　秀子

大井　髙木　洋子

MM　千葉　伶華

千間　北川　貴子

書学　谷口　清人

永岳　野島　静江

野沢　高柳美佐恵

水茎　源　貴美

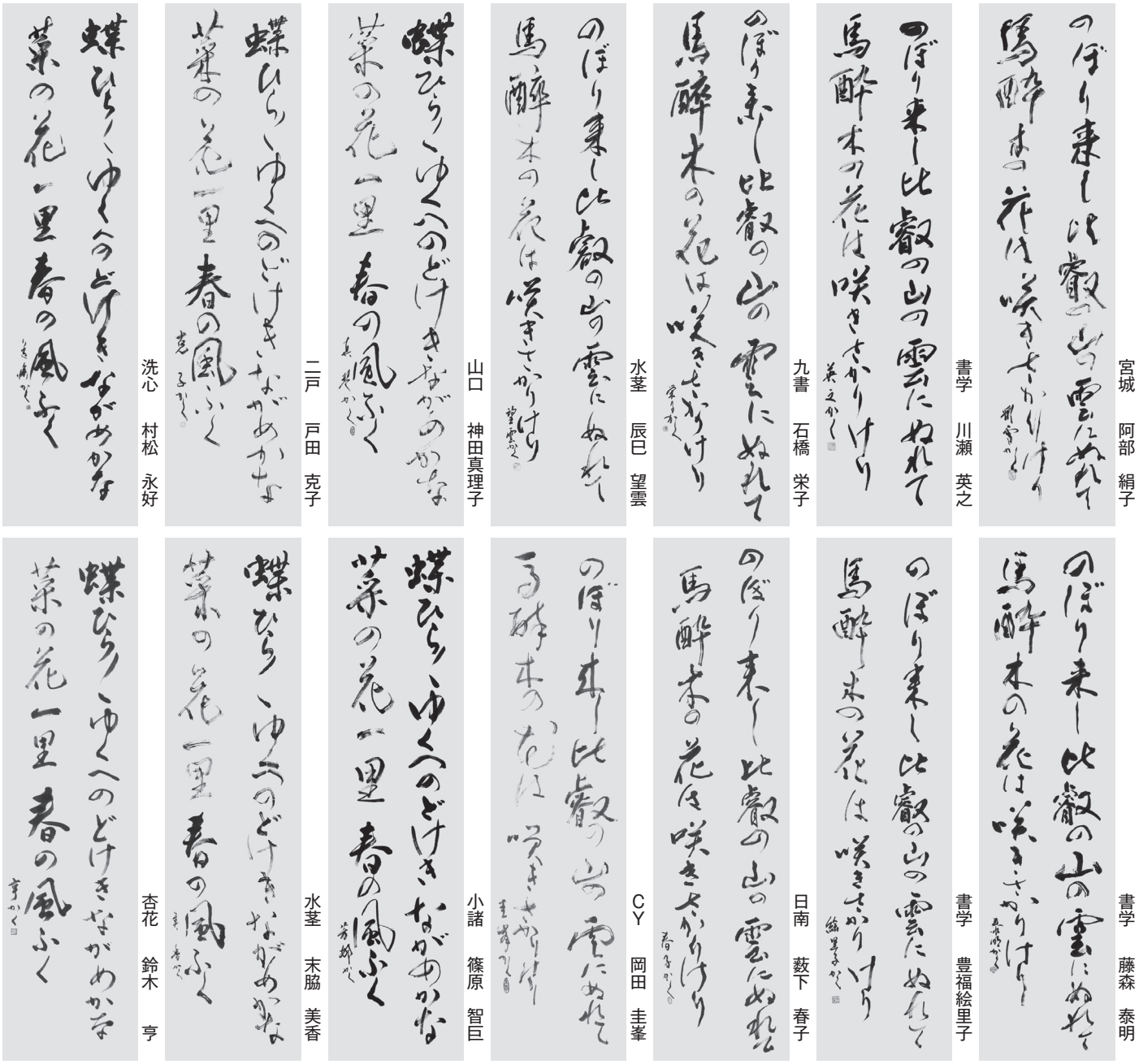
兵庫　谷垣　昌代

茎崎　長嶋　麗水

書学　藤林　千春

長湫　市川　佳泉

新和様条幅



宮城　阿部　絹子

書学　川瀬　英之

九書　石橋　栄子

水茎　辰巳　望雲

山口　神田真理子

二戸　戸田　克子

洗心　村松　永好

書学　藤森　泰明

書学　豊福絵里子

日南　薮下　春子

CY　岡田　圭峯

小諸　篠原　智巨

水茎　末脇　美香

杏花　鈴木　亨

大分　安部　征遠

水藍　宮迫　央苑

書学　酒井　葉香

書学　福田　昌翠

書学　石井　美帆

書学　槻木　新二

書学　和泉　詩

実用書

教室名 墨美
氏名 高橋秋帆

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 伊賀
氏名 山口智代

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 洗心
氏名 森田知波

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 佐倉
氏名 石渡櫻佳

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 ぬま
氏名 斉藤和菁

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 山本
氏名 青柳光輝

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 福岡
氏名 林田亜美

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 書学
氏名 加藤恵美子

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

支部名 瀬谷
氏名 浅井桃多

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

教室名 西宮
氏名 中島美幸

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

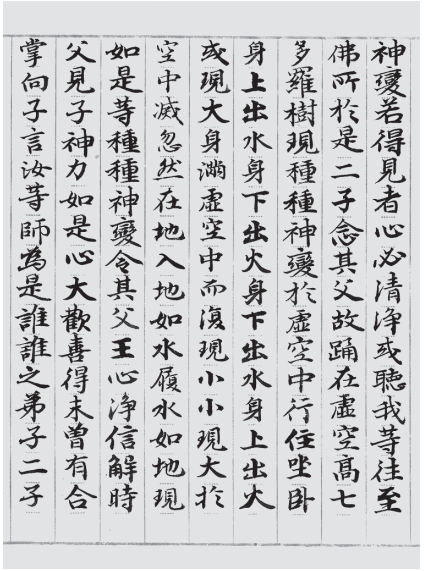
教室名 彩楽
氏名 村崎香織

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

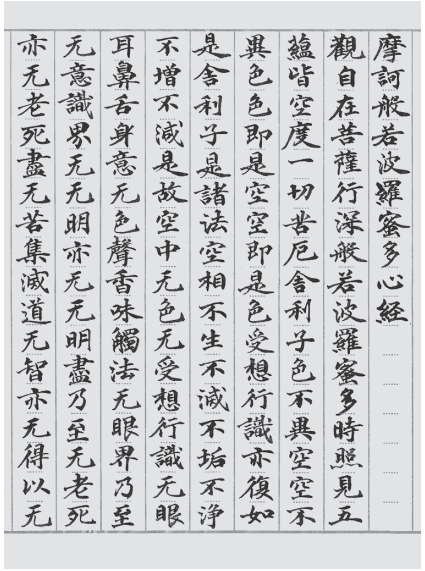
教室名 高崎
氏名 新保昭子

形ばかりの品でございますがお土産のしるしに
当地の名産品でとてもおいしいときいましたので
ご主人様のご好物と伺っておりましたので

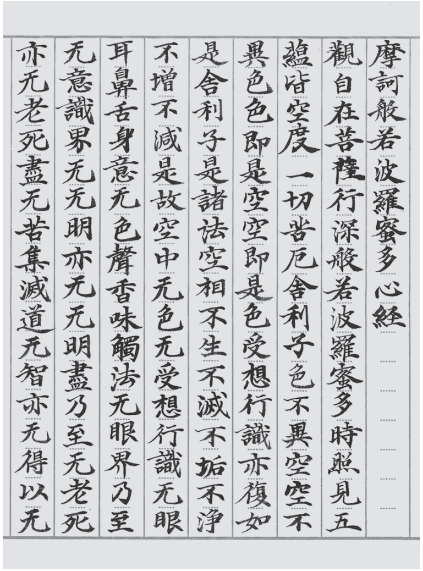
細　字



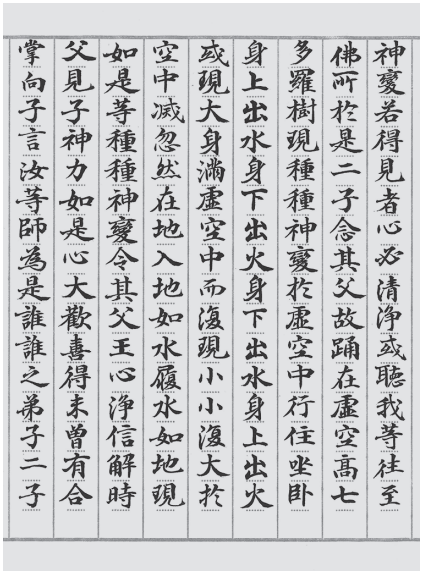
西宮　中島　美幸



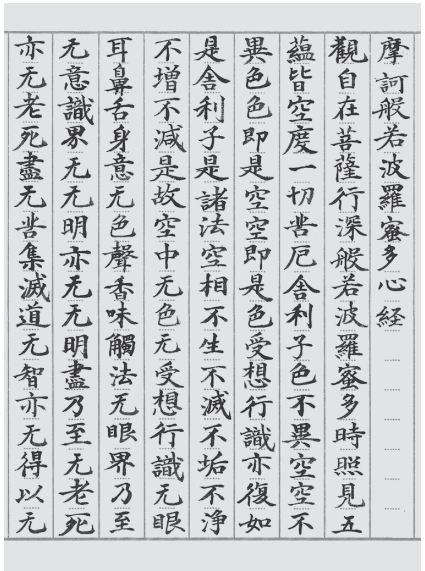
書学　和久津久美



書学　尾﨑美和子

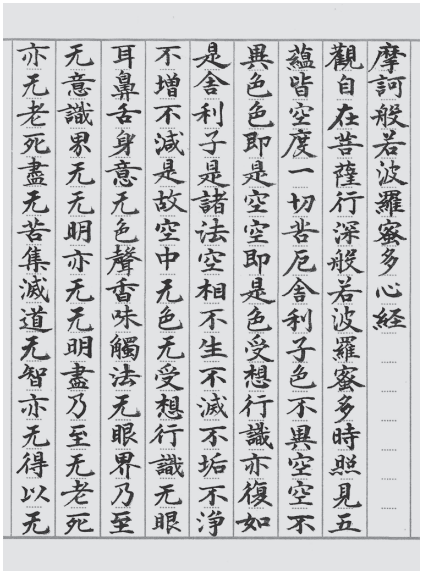


金子　金子シゲ子

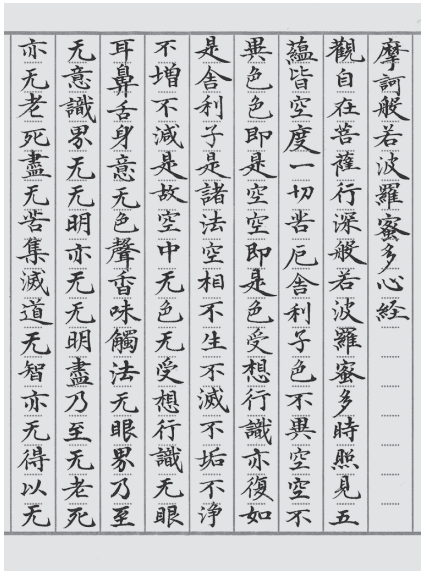


中台　戸田　優子

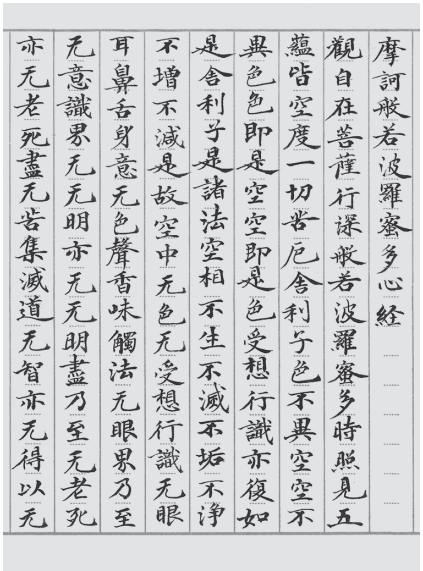
書学　國吉　利典



書学　北江　恵子



書学　小島　黄雪



書学　伊澤　佳那

篆刻・一字書

審査評—秋山　凌雲

規定「栄光五色」

書学　藤野　仁三　刀がよく切れていて線質も強い。漢印の特徴を良く捉えた秀作。

書学　石井　孝夫　外郭を太く中の文字を細くして全体的に変化に富んだ雅味ある作。

水茎　武藤美栄子　垂線の界線を効果的に入れたため、作品全体が引き締まっている。模範的な小篆の作品。

随意「行雲流水」

水茎　青戸　佑きこ　印稿段階で構想を充分に練っているせいか分間布白が素晴らしい。外郭下辺はもう少し撃辺を加えてもよかったか。

規定（瞬）

審査評—石橋　鯉城

書美の真髄を求める漢字の一字書——

櫻水　滝沢　石楠　この字は18劃。それを簡明に草書で表現。これだけの表現力を伴えば完璧と言はん。傑作。偏は黒い塊に、旁は點劃が躍りたり。

洗心　久保　治舟　無理のない自然なる運筆。骨力もありて草書に活を入れる。終始一貫氣脈貫通。今迄に見ざる貴女の最高傑作。學び甲斐を見ん。

三木　宮田　雲鶴　少し力みがとれての楽趣を見る。正面に書かれた瞬は左に傾くが畫印の位置、大きさでバランスを保つ。墨色にて印象もまた變化か。

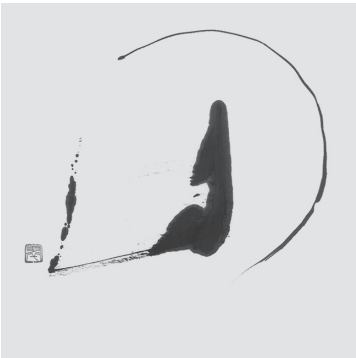
平心　長田　哲香　瞬を金文の型を以て書す。濃墨にて點劃も鮮なり。分間物を言ふ。作品として右側押印は蛇足ならんや。餘白として殘したい。

随意（の）

審査評—石橋　鯉城

詩情や筆遣ひの極意を知る平がな表現—

松　角田　茅水　達腕にして指法も加えて、線質墨色共に佳なり。作品の規模も大きい。雅印も變形印を用ひて作風寛綽。



水茎　浦上みどり　梨を二つ截りにせし折りの表面を見るが如し。金冬心の餌菊詩に、其れが書か圖案かの問いを投げかけるやふな面白さを表現。簡明、清楚。

神奈　斉藤　仲子　平假名「の」を表現して其の原字「乃」を想はせる。筆の走りもよく、藏鋒、露鋒の變化もありて含蓄に富む。永年の習錬の賜。

一色　飯塚　幸子　形意共に平假名の行意をもって筆を運ぶ。優美にして自然な運腕を見る。筆の鋒の開閉にて書線の輪郭の粗滑を見せる。鋒先閉じて静寂。